

2018年4月24日（火）山陽新聞

起業家育成塾 岡山イノベーションスクール2018が開講



起業家を育成する「岡山イノベーションスクール2018」が4日、岡山市北区柳町の山陽新聞社さん太ホールで開講した。起業や新規創業を支援し地域活性化を目指す「岡山イノベーションプロジェクト2018」（中国銀行、山陽新聞社主催、公益財団法人サンマルク財団特別協賛）の中核事業の一つで、選考

されたスクール生30人が出席。福田正彦同プロジェクト実行委員長・中国銀行常務のあいさつ、松田正己山陽新聞社社長の開講宣言に次いで、半導体・液晶製造装置メーカー・ローツエ（福山市神辺町）の崎谷文雄相談役が、自らの起業家人生と事業発展の経緯などを講演した。



高校時代の地域活性化事業で商品開発やイベントを行い、将来は地元へ貢献できる事業をしたいと思うようになり参加しました。昨年の岡山イノベーションコンテストでは、自分たちの商品を会場内で販売し、その際、幅広い年代の方々が、さまざまな視点からビジネスプランを提案しており、私も自分の考えを形にする力を身に付けたいと思いました。スクールに参加し、話を聞くだけでなく、自分ならどうするか、この事業についてはどう思うかなどを考え、発言することで能動的に動ける力を学びたいと思います。



スクール生
高淵 歩美さん
(川崎医療福祉大1回生)



講演の後、交流会が山陽新聞社本社ビル20階であり、スクール生、パートナー企業、主催者ら関係者約100人が歓談した。スクール生は5班に分かれて自己紹介や決意を披露し、「コンテストに向け頑張りたい」と意気込みを語った。

交流会